

平成22年5月31日現在

研究種目：基盤研究（B）
研究期間：2007～2009
課題番号：19330033
研究課題名（和文） 芦田均文書の保存・整理・公開および研究基盤創出のための総合的研究
研究課題名（英文） A comprehensive study to lay foundation of research on Hitoshi Ashida by conserving, organizing, and publishing his documents.
研究代表者
福永 文夫（FUKUNAGA FUMIO）
獨協大学・法学部・教授
研究者番号：60199255

研究成果の概要（和文）：

本研究は、研究目的に掲げているように、芦田均文書の保存・整理・公開を第一の目的としている。この目的に従って、以下の文書をマイクロ化もしくはCD化・DVD化した。

- ① 芦田均日記
- ② 芦田均資料Ⅰ（下河辺元春氏所蔵文書）
- ③ 芦田均資料Ⅱ（芦田均新聞・雑誌原稿）
- ④ 芦田均写真資料
- ⑤ 芦田均資料Ⅲ（福知山郷土資料館所蔵文書）
- ⑥ 芦田均資料Ⅳ（『東京だより』）
- ⑦ 芦田均資料Ⅴ（国会図書館憲政資料室所蔵文書）
- ⑧ 芦田均資料Ⅵ（補遺）
- ⑨ 芦田均資料（講演録）

2009年9月5日、福知山市役所と共催で、シンポジウムを、また同年10月11日には、日本政治学会で学会発表（「新外交と中道政治の展開－芦田均の戦前と戦後」）を行なった。さらに、芦田日記については、2011年度に向けて出版準備を進めている。

研究成果の概要（英文）：

As stated below, our project primarily aims to conserve, organize, and publish Hitoshi Ashida's documents, which are mainly his diaries (1905–1945), his letters, and his photographs. We have now microfilmed or digitalized the following documents and materials into CDs or DVDs:

1. *Hitoshi Ashida's Diaries*
2. *Hitoshi Ashida's Documents I*, or the ones collected by Motoharu Shimokobe's collection
3. *Hitoshi Ashida's Documents II*, or his newspaper and periodical articles
4. *Hitoshi Ashida's Photographs*
5. *Hitoshi Ashida's Documents III*, or the ones in the collections of the Fukuchiyama Museum of History and Folklore
6. *Hitoshi Ashida's Documents IV*, or almost all his articles on *Tokyo Dayori*
7. *Hitoshi Ashida's Documents V*, or the ones in the collections of the Modern Japanese Political History Materials Room in National Diet Library
8. *Hitoshi Ashida's Documents VI*, or the Supplement of his ones
9. *Hitoshi Ashida's Documents VII*, or his lectures and speeches

In addition, we contributed to the City of Fukuchiyama by having a symposium on Ashida co-hosted with City Office on 5 September 2009. We also organized a research meeting New Diplomacy and Middle-of-the Road Politics: Hitoshi Ashida before and after the War at the Annual Convention of Japanese Political Science Association on 11 October 2009.

We will be planning to publish the *Hitoshi Ashida's Diaries 1905-1945* by 2011.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2007年度	6,000,000	1,800,000	7,800,000
2008年度	5,100,000	1,530,000	6,630,000
2009年度	3,400,000	1,020,000	4,420,000
年度			
年度			
総計	14,500,000	4,350,000	18,850,000

研究分野：政治学

科研費の分科・細目：政治学・政治学

キーワード：芦田均、政治、外交、戦前・戦時日本、政友会

1. 研究開始当初の背景

本研究は、代表者（福永文夫）に寄託された下河辺元春氏（芦田均氏の孫）所蔵の芦田均関係文書をベースとしている。所蔵文書はおおよそ、日記、書簡、写真の3つに大別される。

芦田均は明治20(1887)年京都府天田郡(現在の福知山市)に生まれ、1904(明治37)年第一高等学校に入学、1907(明治40)年東京帝国大学仏法科に進み、11年には高等文官試験外交科試験に合格している。翌12年7月東京帝国大学を卒業、同(大正元)年8月外交官補に任ぜられた。1915年ロシアの首都ペテルスブルクを皮切りに、4年間のパリ在勤を経て、1923(大正12)年本省に戻り情報部第二課長を務めた。25年からは再び在外勤務となり、トルコ、ベルギーの代理公使を務めるなど主に大陸畑の外交官としての道を歩んだ。そして、1932(昭和7)年退官するとともに、同年衆議院総選挙に政友会から立候補し当選、戦前4期・戦後7期つとめた。この間彼はジャパン・タイムズの社長を務め、ジャーナリストとしても活躍した。戦後自由党結成に際しては中枢を担ったが、47(昭和22)

年民主党に転じ総裁となり、片山内閣では副総理格の外相として入った。同内閣崩壊後48年3月には、自ら首班として内閣を率いた。以上に述べた通り、芦田は外交官、政党政治家、ジャーナリストとして戦前・戦後に重要な足跡を残した。

また芦田は、優れた文筆の才を駆使し、数多くの著書をもつと同時に、膨大な日記を残したことで知られる。日記は、彼が第一高等学校に入学した翌1905(明治38)年からつけ始められ、1959(昭和34)年6月死の床に至るまで、半世紀有余の間つづられている。日記は明治・大正・昭和の三代をまたぐ全73冊に及び、それ自体近現代史の史料として極めて高い価値を有している。

日記は、概略次のように分けられる。まず1905年から1912年東京帝国大学卒業までの明治期のものが8冊。次いで外交官補に任ぜられてからペテルスブルグからパリに至る在外勤務を終え、外務省情報部第二課長に転じた本省時代までの大正期のもの9冊。そして、トルコ、ベルギーで代理公使を含めた欧州勤務の7年間に当たる昭和初頭期と、1932年政界入りしてから敗戦に至る、政治家

としての戦前・戦中期のものが 23 冊の、計 40 冊である。以後敗戦から死の直前までの戦後期のものが 33 冊ある。戦後の 33 冊については、すでに進藤栄一・下河辺元春両氏の編纂によって、岩波書店（全 7 巻）から刊行され、研究者の間で歴史史料としてきわめて高い評価を受けている。

しかし他方、戦前部分についてはその存在が知られていながら、いまだ未公開であり、その公開が待たれて久しい。芦田日記の特徴としては、外国語が多用されていることをあげることができる。在外勤務時代と戦時下にとくに顕著である。それは外国語の練習という意味もあったが、戦中期の政治家になってからは、官憲の目を逃れるためという色彩がつよい。1920～21 年、28～29 年の日記はフランス語で、43～45 年の日記は英語で記述されている。また日記は 2 種類からなる。一つは日記本体と呼ぶべきものであり、もう一つは「手帳日記」とも呼ぶべきもので、日々の出来事がメモ風に記されている。

書簡については、幣原喜重郎、牧野伸顕、結城豊太郎ら当時の関係者、および父鹿之助との往復書簡を含め、芦田の当時の交遊関係、肉声を伝えるものとなっている。また写真については、彼の多彩な趣味の賜物であるが、芦田が参加した国際会議、昭和天皇の皇太子時代の訪欧に随行した際のもの等が含まれ、それ自身時代の貴重な記録となっている。その他ラジオ放送の原稿等興味深いものを含め、ダンボール箱 5 個が未整理状態である。

2. 研究の目的

本研究の目的は第一に、芦田均関係文書（日記、書簡、写真等）を整理・保存することにある。原本はその起草年代から分かるようになりにかなり傷みが激しい。その保存に際してコピーは困難であり、専門家による撮影が必要である。とくに 1930 年以前の日

記については、原本の状況、その貴重さからみてこの方法が不可欠と考えられる。なお 31 年以降についても、すでに複写済みであるが、保存という観点から同様に撮影を行うこととする。また公開に際しては、分量の膨大さ、および内容における高度の専門性から鑑みて、専門家による分析が不可欠である。その意味で、本研究では第二に、専門家による日記の検討・校訂を行う。次いで校訂を終えたものから、アルバイトを雇い随時入力する。さらに本研究では、文筆の才に長けた芦田の著作、論稿、報告書等をできるだけ集め、芦田の戦前（戦時）・戦後期における活動を明らかにし、その全体像を再構成するとともに、芦田を通じて、戦前・戦後日本のあり方を明らかにすることを目的としている。そのため、日記に添付された新聞記事のみならず、外交官時代の芦田の報告書等の収集・検討・分析を行う。芦田は最初の赴任地ペテルスブルクで、ロシア革命を目の当たりにし、優れた報告書を本国政府に送付しているが、第 1 次大戦の目撃者としての証言も興味深い。ついで、代議士となって以降の議会における彼の活動記録、発言録、様々な雑誌等への投稿記録を収集する。芦田文書を含め、目録を作成する。これらは明治以後の日本近代を読み解く鍵として、日本外交史、政党政治史に関する研究基盤の創出につながると同時に、研究に資するところ大である。

なお芦田均については、前掲『芦田均日記』（岩波書店）所収の進藤栄一氏の筆になる「解題」のほか、芦田の側近であった石山賢吉の『芦田首相を描く』（ダイヤモンド社、1948 年）、宮野澄『最後のリベラリスト・芦田均』（文芸春秋、1987 年）などの著作はあるが、その本格的研究は進んでいない。

芦田の国際情勢への見方、再軍備論などに見られる政治観は、戦前・戦後の長いタイムスパンのなかで位置づけられなければならない。芦田を戦後保守の一つの潮流を代表するものとして位置づける時、戦後および現在までを規定する総力戦体制、社会民主主義、ナショナリズムと、その修正資本主義、デモクラシー観を再検討することのできる資料を得た価値は大きい。またロシア革命を目撃したことや第1次大戦の現場としてのヨーロッパでの経験は、戦前と戦後の連続・非連続を解明する意義においても興味深い。

最後に、日記を含む論稿等は、データベース化をはかり、公開することで研究の便を図りたい。なお、芦田関係文書は、本研究終了後、国会図書館憲政資料室、芦田記念館（福知山市）に寄贈される予定である。

3. 研究の方法

[平成19年度]

平成19年6月30日東京で、研究打ち合わせ会を開催、各自分担および平成19年度研究計画を確認した。次いで7月8日東京で第1回研究会を開き、三川譲二「外交官時代の芦田均」および矢嶋光「戦前議会政治家時代における芦田均の経歴」報告ののち、質疑・討論を行った。11月17日東京で、第3回研究会を行い、各自の進捗状況を報告し、日記を起こす際の問題点等を検討・確認した。

12月25日～27日2泊3日で、代表者（福永）ほか5名は、福知山市で福知山市役所関係者の協力を受け、資料の予備調査を行った。平成20年2月18日～20日（2泊3日）資料調査および研究会合宿のために、福知山市ほかを視察した。芦田均記念館、福知山市郷土資料館（福知山市）、ゲンゼ記念館（綾部市）、柏原高等学校（兵庫県）等で資料調査・収集を行った。

平成19年度の成果としては、以下の5つを挙げることができる。（1）「芦田均日記」（1906年～45年）計40冊のマイクロ化・CD化により、その保存を図るとともに研究分担者に配布し、研究の用に付した。（2）原本および同CDをもとに、12年分（全40年分）を起こし、入力作業を終わった。なお、校訂については鋭意準備中である。（3）未整理の芦田均関係文書（論稿、書簡については一部）を整理・検討し、仮目録を作成した。

（4）芦田均の講演会テープをDVD化し、保存整理を行った。（5）柏原高校所蔵の芦田均の論稿を収集した。

[平成20年度]

平成20年5月31日東京で、研究打合せ会を行ない、各自分担および平成20年度研究計画を確認した。次いで7月19日東京で、第2回研究会を行ない、芦田均関係雑誌・新聞原稿の収集等について打合せを行なった。11月22日東京で、第3回研究会を行ない、（1）これまでの進捗状況、とくに雑誌記事収集、写真等の整理、（2）ベルギー・フランス調査について、（3）日記の検討・校訂作業について（雨宮昭一氏報告）などの報告を受け、検討した。そして、平成21年1月29日～30日の両日浜松で研究合宿を行い、矢嶋光氏報告、2008年度総括、2009年度学会報告等について打ち合わせを行った。天川はトルコでの調査を行なった。

本年度の成果としては、（1）芦田日記原本および同CDをもとに、30年分を起こし、入力作業を行なった。（2）芦田均関係雑誌・新聞論稿を収集、データベース化した。（3）同写真についても整理・検討を行なった。

[平成21年度]

平成21年6月6日東京で、研究打ち合わせ会を開催、各自分担および平成21年

度研究計画を確認した。9月5日福知山市民会館でシンポジウムを開催、翌6日同所で研究会を行ない、植田・矢嶋両氏の報告を聞き、議論した。10月11日日本政治学会で報告。12月13日東京で、研究会を開き日記刊行について打ち合わせを行なった。2010年2月18～19日浜松で、最終成果報告、出版に向けての打ち合わせ・検討を行なった。

本年度の成果としては、(1) 福知山市所蔵の芦田均文書のCD化、(2) 芦田均文書中の写真のCD化、(3) 『東京だより』中の芦田均原稿のCD化、(4) 国会図書館憲政資料室所蔵の芦田文書のCD化、(5) これまでのデータで漏れた芦田均文書(写真・書簡等々)をCD化した。

4. 研究成果

(1) 収集資料

① 芦田均日記

芦田均日記1905年～45年までの原本。

② 芦田均資料Ⅰ(下河辺元春氏所蔵文書)

段ボール12箱を整理。原稿・書簡等。日記・ノート5冊、単行書(冊子等40編、手書き原稿23編、単行書所収論文21編、幣原喜重郎等宛書簡17通。

③ 芦田資料Ⅱ(芦田均新聞・雑誌原稿)

国会図書館等で収集した芦田均執筆の雑誌・新聞原稿916編を収録

④ 芦田均資料Ⅲ(福知山郷土資料館所蔵文書) 昭和17年総選挙ほか。

⑤ 芦田均資料Ⅳ(『東京だより』)

雑誌『東京だより』収録の芦田均の原稿211編を収集・整理。

⑥ 芦田均資料Ⅴ(国会図書館憲政資料室所蔵文書)

下河辺元春氏が国会図書館に寄託した芦田関係文書のうち「文書類」から精選・収集した189編。

⑦ 芦田均写真資料

下河辺元春氏所蔵の芦田関係写真を収録

⑧ 芦田均資料Ⅶ(補遺)

下河辺元春氏所蔵の写真・書簡集等を収録。雑誌・新聞等原稿9編、書簡52通、写真200葉。

⑨ 芦田均資料(講演録)

DVD17枚

(2) シンポジウム

日時: 2009年9月5日

場所: 福知山市民会館(福知山市役所、芦田均元首相顕彰会との共催)

基調報告: 雨宮 昭一「芦田均—郷土が育んだもの」

パネル・ディスカッション「芦田均—福知山から考える」

コーディネーター 福永 文夫

報告者: 植田 麻記子

矢嶋 光

三川 譲二

井上 重典(芦田均元首相顕彰会)

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計1件)

① 植田麻記子「占領初期における芦田均の国際情勢認識—『芦田修正』から『芦田書簡』へ—」(『国際政治』151号、査読有、2008.3、pp.54～72.)

[学会発表](計1件)

① セッション・テーマ:

「新外交と中道政治の展開—芦田均の戦前と戦後」

報告: 植田麻記子「芦田均の政治外交論—『国民外交』と『中道政治』」
矢嶋 光「外交官芦田均—戦間期新外交の展開とその国際政治観」

討論者: 服部 龍二、雨宮 昭一

司会: 福永 文夫

(日本政治学会、2009.10.11、日本大学)

[図書](計2件)

① 雨宮昭一「占領改革は日本を変えたか」(『シリーズ日本近現代史⑩日本の近現代史をどう見るか』(岩波書店、2010年、P159-180)

② 植田麻記子、「日本における「自由主義」の展開と芦田均—占領下中道政治とその思想的源流」(萩原能久編『ポスト・ウォー・シティズンシップの思想的基盤』第3部第8章、慶應義塾大学出版会、2008、pp.187～210.)

[産業財産権] なし

[その他] なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

福永 文夫 (FUKUNAGA FUMIO)

獨協大学・法学部・教授

研究者番号：60199255

(2) 研究分担者

雨宮 昭一 (AMEMIYA SHOICHI)

獨協大学・法学部・教授

研究者番号：90007766

津田 由美子 (TSUDA YUMIKO)

獨協大学・法学部・教授

研究者番号：30247184

天川 晃 (AMAKAWA AKIRA)

放送大学・教養学部・教授

研究者番号：10009813

(H19→H21：連携研究者)

瀧口 剛 (TAKIGUCHI TSUYOSHI)

大阪大学大学院・法学研究科・教授

研究者番号：10257959

三川 譲二 (MIKAWA JOJI)

舞鶴高等工業専門学校・

人文科学部門・教授

研究者番号：40259891

(H19→H21：連携研究者)

源川 真希 (MINAGAWA MASAKI)

首都大学東京・人文系研究科・准教授

研究者番号：10264574

村井 良太 (MURAI RYOTA)

駒澤大学・法学部・教授

研究者番号：70365534

(3) 研究協力者

植田麻記子 (UEDA MAKIKO)

日本学術振興会特別研究員 (慶応義塾
大学)

矢嶋 光 (YAJIMA HIKARU)

大阪大学大学院法学研究科博士課程

埜村 紳二 (NOMURA SHINJI)

岡山商科大学・法学部・准教授

コンペル・ラドミール (COMPEL RADOMIR)

横浜国立大学総合的海洋教育・研究セ
ンター特任教員

下河辺元春 (SHIMOKOUBE MOTOHARU)

芦田均氏の孫、嘉悦大学元助教授